

救急業務の実施状況

1 救急活動状況（前年比）

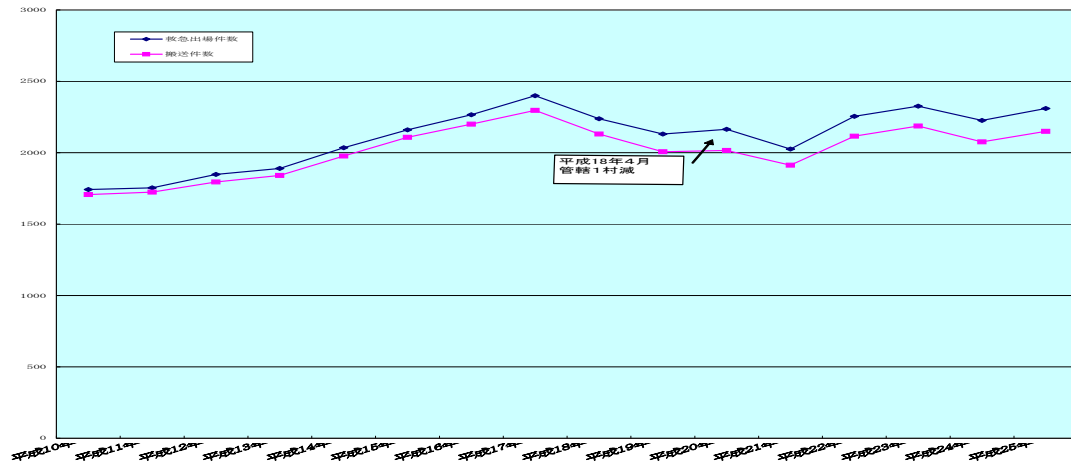
平成25年中における救急出場件数は2,310件（84件増）、搬送人員は2,150人（74人増）で、性別で見ると男性が1,169人〔54.4%〕、女性が981人〔45.6%〕となっています。

このうち、御坊医療圏内【美浜町・日高町・由良町・印南町・日高川町・御坊市〔管外〕】への救急出場件数は1,656件（7件増）、搬送人員は1,564人（18人増）であり、田辺医療圏内【みなべ町】での救急出場件数は654件（77件増）、搬送人員は586人（56人増）でした。

また、総救急出場件数2,310件に要した活動時間は延べ約2,415時間、走行距離は延べ67,576kmで、救急隊による出場件数の内訳は、日高救急隊991件（11件増）・南部救急隊626件（72件増）・印南救急隊453件（18件増）・中津救急隊240件（17件減）の順となっています。

なお、救急救命士が行った高度救命処置件数は73件（73人）で、その状況については「6救急救命士の活動状況」のとおりです。

年別救急出場件数及び搬送件数の推移



- ※ 昭和58年10月1日から救急業務運用開始。
- ※ 昭和58年から平成2年9月30日までは管轄7町村、平成2年10月1日からは管轄10町村。
- ※ 平成16年10月1日、南部町・南部川村が町村合併によりみなべ町となり、管轄9町村（管轄エリアの増減なし）。
- ※ 平成17年5月1日、川辺町・中津村・美山村が町村合併により日高川町となり、龍神村が田辺市と合併し、管轄6町となるが、龍神村は田辺市との消防事務の委託に

より業務継続。(管轄エリアの増減なし)。

※ 平成18年3月31日、田辺市との消防事務の委託期間が終了したため、管轄6町となる。(龍神出張所管轄エリア減)

2 救急活動の実態

(1) 救急出場件数の内容

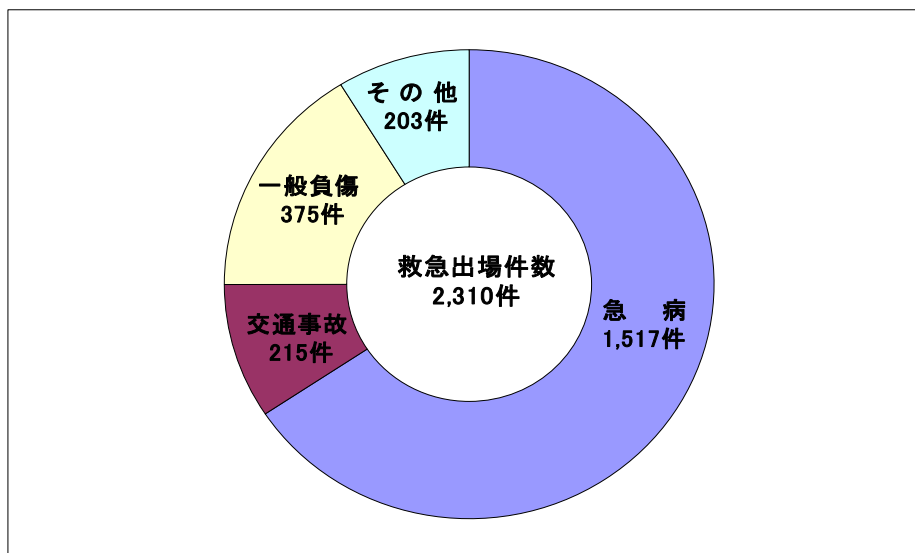
ア 事故種別(前年比) — 第1表

救急出場件数2,310件の事故種別をみると、急病1,517件(94件増)・一般負傷375件(5件増)・交通事故215件(14件減)・その他115件(16件減)・労働災害34件(6件増)・自損24件(8件増)・運動競技13件(2件減)加害10件(6件増)・水難事故5件(増減なし)・火災2件(1件増)・自然災害0件(増減なし)の順となっています。

なお、急病〔65.7%〕、一般負傷〔16.2%〕及び交通事故〔9.3%〕が救急出場件数全体の9割以上を占めています。

上記の事故種別割合を全国平均〔平成24年中〕と比較してみますと、急病〔全国62.9%〕・一般負傷〔全国14.3%〕の割合が高く、交通事故〔全国9.4%〕は低くなっています。

事故種別救急出場件数

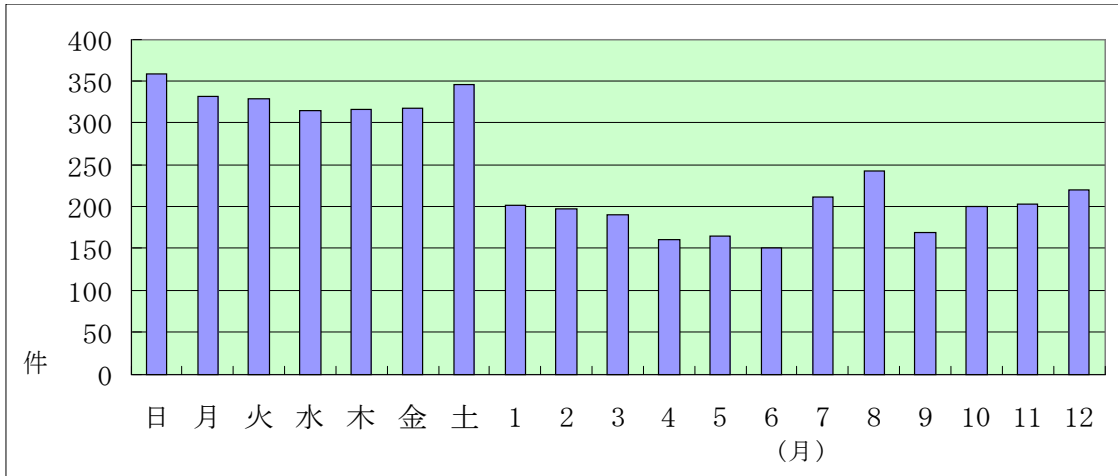


イ 曜日別出場状況及び月別出場状況(前年比) — 第2表

平成25年中の曜日別平均出場件数は、330件(12件増)であり、最も出場件数が多い曜日は、日曜日の358件(平成24年中は、月曜日の352件)となっています。

次に、月別出場状況を見ると、1ヵ月平均193件(7件増)の出場であり、最も出場件数が多かったのは8月の242件(平成24年中は、1月の227件)、次に12月の220件、11月の203件・・・の順となっています。

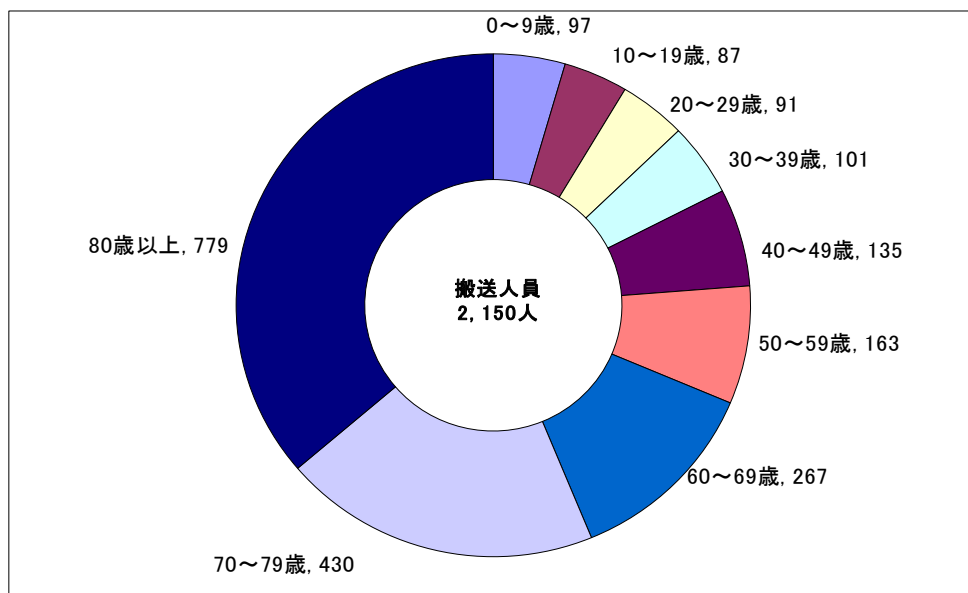
曜日別・月別救急出場件数



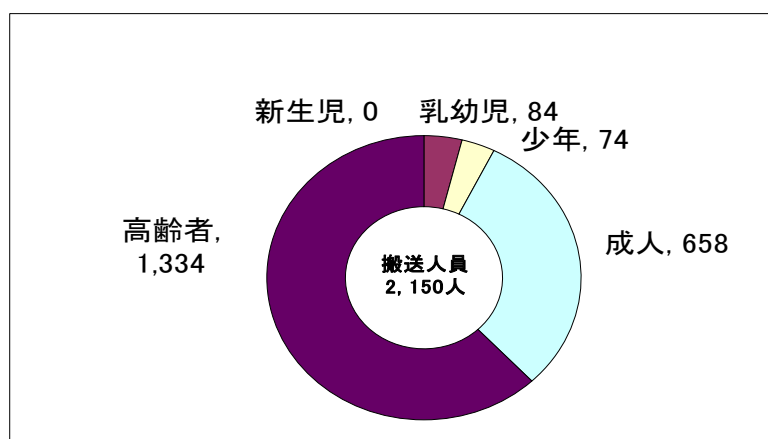
ウ 年齢別搬送人員状況（前年比） — 第3表

救急患者を年齢別にみると、80歳以上779人(31人増)、70歳代430人(9人減)、60歳代267人(22人増)、50歳代163人(6人減)、40歳代135人(35人増)・・・の順となっており、65歳以上の高齢者が1,334人で全体の62.1%〔平成24年全国53.1%〕を占めています。

年齢別搬送人員



年齢区分別搬送人員



※ 「新生児」：生後28日未満，「乳幼児」：生後28日以上満7歳未満，
「少年」：満7歳以上満18歳未満，「成人」：満18歳以上満65歳未満
「高齢者」：満65歳以上

エ 災害弱者等の搬送状況 —— 第4表

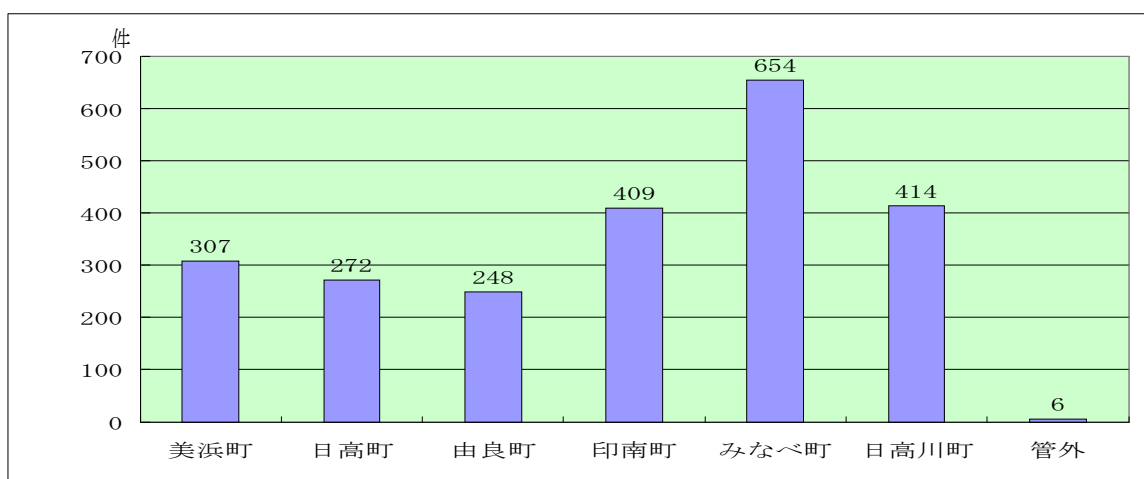
全搬送人員2,150人中426人(19.8%)が災害弱者であり，その内訳をみると，寝たきりの高齢者93人，認知症の高齢者91人，独居の高齢者88人，在宅療法患者73人，精神障害者45人・・・となっています。

また，在宅療法患者の在宅療法としては，酸素投与が最も多く19人となっています。

(2) 救急発生率及び利用度 —— 第5表

管轄町村別の救急出場件数は，みなべ町654件(28.3%)，日高川町414件(17.9%)，印南町409件(17.7%)，美浜町307件(13.3%)，日高町272件(11.8%)，由良町248件(10.8%)…の順となっています。

町村別救急出場件数



管轄町の全搬送人員からみた救急発生率〔管内住民100人当たりの搬送人員〕は3.9人であり、同発生率から住民搬送状況をみると、住民の約25人に1人が救急車を利用したことになります。

なお、救急車利用度の全国平均〔平成24年中〕が24人に1人であることから日高郡内での救急車の利用度は、全国平均を下回っています。

また、全搬送人員から救急車利用度を町村別にみると、みなべ町が約21人に1人、印南町が約22人に1人、美浜町・由良町・日高川町が約26人に1人、日高町が約31人に1人が救急車を利用したことになります。

(3) 救急車の活動率（前年比）

ア 隊別出場状況 ― 第6表

全救急隊（6隊）の1日当たりの平均出場件数は約6.3件（0.2件減）、1件当たりの活動所要時間は約63分（2分増）、走行距離は約29.3km（0.5km減）となっています。

全救急隊のうち1日当たりの平均出場件数が最も多いのは、日高隊の約2.7件（増減なし）で、日高隊の出場件数は、出場件数全体の約42.9%を占めています。

イ 覚知別出場状況 ― 第7表

救急出場件数2,310件を覚知別にみると、消防専用電話（119番）が1,886件（固定電話881件・携帯電話543件・IP462件）で全体の約81.6%を占め、次いで加入電話の311件、駆付通報98件、自己覚知11件となっています。

ウ 時間別出場状況 ― 第8表

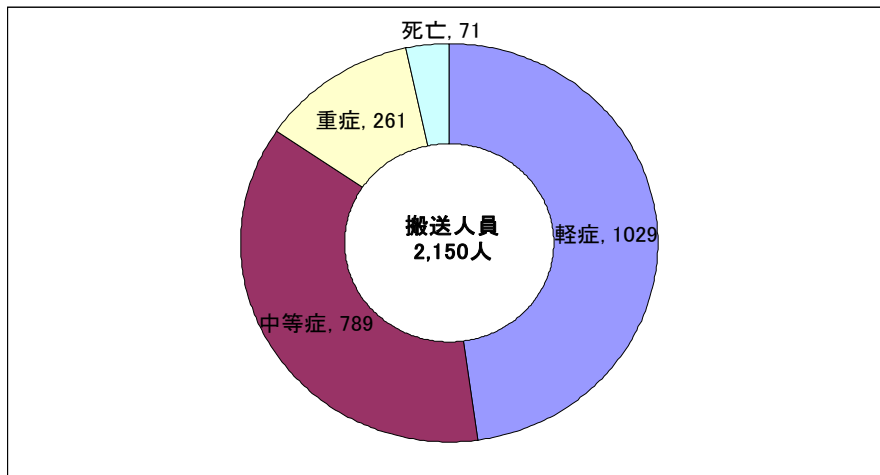
救急出場件数2,310件を時間別にみると、就業及び生活行動が活発化する午前8時から午後8時までの時間帯が1,557件で全体の約67.4%を占め、深夜になるほど出場件数は減少しています。

(4) 傷病程度別搬送人員の状況（前年比） ― 第9表

平成25年中に搬送した2,150人について、その傷病程度をみると、入院加療を必要としない軽症患者が全体の47.9%（1.0%増）、入院加療を要するもので重症に至らない中等症患者が36.7%（0.8%増）、3週間以上の入院加療を必要とする重症患者が12.1%（2.2%減）、死亡が3.3%（0.5%増）となっています。

この割合を全国平均〔平成24年中〕で見ると、当消防本部では重症患者〔全国9.1%〕及び死亡〔全国1.5%〕の割合が高く、軽症患者〔全国50.4%〕及び中等症患者〔全国38.9%〕の割合が低くなっています。

傷病程度別搬送人員



- ※ 「死亡」：初診時において死亡が確認されたもの
- 「重症」：傷者の程度が3週間以上の入院加療を必要とするもの
- 「中等症」：傷者の程度が入院を必要とするもので重症に至らないもの
- 「軽症」：傷者の程度が入院を必要としないもの
- 「その他」：医師の診断がないもの及びその他の場所に搬送したもの

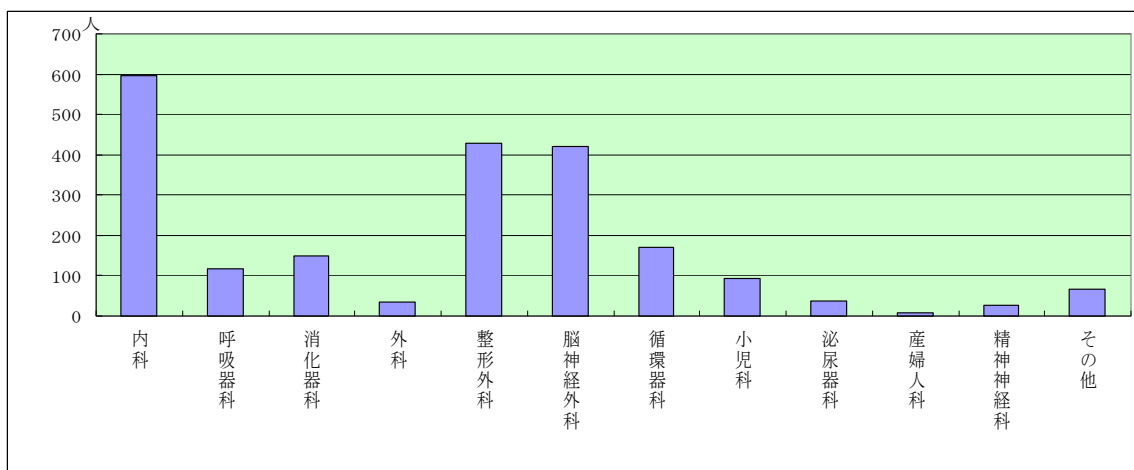
(5) 事故発生箇所別搬送人員状況 — 第10表

各傷病者を事故発生箇所別にみると、急病は住宅で発生したものが約75%を占め、交通事故は道路で約93%、一般負傷は住宅で約53%が発生しています。

(6) 診療科目別搬送人員及び収容状況 — 第11表

平成25年中に救急搬送した傷病者2,150人を診療科目別にみると、内科596人(27.7%)、整形外科429人(20.0%)、脳神経外科421人(19.6%)、循環器科170人(7.9%)、消化器科150人(7.0%)、呼吸器科118人(5.5%)・・・の順となっています。

診療科目別搬送人員



3 医療機関の実態

(1) 全救急隊（6隊）の救急患者収容状況

ア 医療機関別 ― 第12表

平成25年中に搬送した傷病者数は2,150人で、その収容状況を医療機関別にみると、第1位が日高病院の660人（30.7%）、第2位が北出病院の502人（23.3%）、第3位が南和歌山医療センターの252人（11.7%）、第4位が紀南病院の250人（11.6%）、第5位が和歌山病院の169人（7.9%）、第6位が北裏病院の129人（6.0%）の順となっています。

なお、これら上位6病院で全傷病者の約91.3%が収容されています。

(イ) 重症患者の収容状況 ― 第13表

全搬送人員のうち重症患者は261人で、その収容状況をみると第1位が日高病院の73人（28.0%）、第2位が北出病院の52人（19.9%）、第3位が南和歌山医療センターの32人（12.3%）の順となっています。

(ロ) CPCR実施患者の収容状況 ― 第13表

CPCR（心肺脳蘇生法をいう。以下同じ。）を実施しながら医療機関に搬送した患者77人の収容状況をみると、第1位が北出病院の21人（27.3%）、第2位が和歌山病院の20人（26.0%）、第3位が日高病院の13人（16.9%）の順となっています。

イ 医療機関の所在地別収容状況 ― 第12表

収容医療機関の所在地別に救急患者の収容状況をみると、全傷病者のうち御坊市内の医療機関に1,298人（60.4%）、田辺市内医療機関に544人（25.3%）、管内である日高郡内の医療機関に203人（9.4%）、その他県内医療機関に105人（4.9%）となっています。

ウ 事故種別による収容状況 ― 第14表

事故種別からみて救急件数の多い急病、交通事故及び一般負傷について、それぞれの種別ごとに救急患者の医療機関収容状況をみると次のようになります。

(イ) 急病の場合は、第1位が日高病院の33.8%、第2位が北出病院の26.9%、第3位が紀南病院の12.1%の順であり、これら上位3病院によって全急病患者の約72.8%が収容されています。

(ロ) 交通事故の場合は、第1位が北裏病院の30.8%、第2位が日高病院の22.0%、第3位が南和歌山医療センターの15.0%の順であり、これら上位3病院によって全交通事故患者の約67.8%が収容されています。

(ハ) 一般負傷の場合は、第1位が日高病院の27.7%、第2位が北出病院の20.9%、第3位が北裏病院の14.5%の順であり、これら上位3病院によって一般負傷患者の約63.1%が収容されています。

(2) 転送搬送状況（前年比） ― 第15表

平成25年中の転送搬送件数（処置困難等の理由により、第一次搬送先医療機関で収容できないため、他の医療機関へ搬送すること。）は19件（6件増）であり、転送理

由は、処置困難が15件（78.9%）、その他が2件（10.5%）となっています。

(3) 医療機関への収容依頼回数状況 — 第16表

医療機関への収容依頼回数は、平均1.2回であり、これは傷病者1人を収容するのに、平均1.2カ所の医療機関にしか収容依頼を行っていないことを意味するもので、この数字は、御坊・田辺両医療圏の救急体制の充実ぶりを反映したものとと言えます。

4 救急隊による応急処置の状況 — 第17表

平成25年中の搬送人員2,150人のうち、救急隊員が応急処置を行った救急患者は、2,146人（搬送人員の約99.8%）です。

救急処置の内容は血中酸素飽和度測定が最も多く2,072件、次いで血圧測定1,989件、心電図測定882件、保温718件、酸素492件・・・の順となっています。（不搬送を除く。）

なお、全搬送人員2,150人のうち77人に対してCPCRを実施しています。

次に、応急処置の実施率について全国平均（平成24年中）と比較してみると、全国が97.3%であり、当消防本部の実施率は、全国の実施率を上回っています。

5 救命の実態 — 第18-1表～第18-4表

(1) CPA患者及びCPCR患者発生状況

平成25年中のCPA患者（救急隊が現場到着時、既に心肺機能が停止している患者、又は病院到着時までには心肺機能が停止状態になった患者をいう。以下同じ。）は118人であり、平成24年中のCPA患者115人に比べ3人の増加となっており、全救急搬送患者に占める割合は5.5%で、過去3年間（平成22年から平成24年）の平均と同じです。

CPA患者118人のうち、救急隊がCPCR（心臓マッサージ及び人工呼吸）を施した患者は77人（全CPA患者の65.3%、全救急搬送患者の3.6%）となっています。

(2) CPCR患者の年齢別発生状況

CPCR患者を年齢別にみると、65歳以上の高齢者（60人）が全体（77人）の77.9%を占めており、CPCR患者の高齢者比率が高いと言えます。

(3) CPCR患者の蘇生及び救命状況

CPCR患者77人のうち、蘇生（24時間以上入院した者）に成功したのは5人（蘇生率6.5%）となっています。

(4) CPCR患者の死因別状況

CPCR患者の死因（医師の診断に基づく。）をみると、心疾患によるもの（36人）が全CPCR患者（77人）の46.8%を占めており、次にその他（12人）15.6%、脳疾患（7人）9.1%の順となっています。

(5) 救急隊のCPCR着手までの時間

覚知から、救急隊がCPCRに着手するまでの時間は、5分から10分未満で24.

7% (19人), 10分から15分未満が31.2% (24人), 15分から20分未満が13.0% (10人), 5分未満及び25分から30分未満が9.1% (各7人) となっています。

(6) バイスタンダーによる救命手当の実施状況

CPCR患者77人のうち、バイスタンダーにより人工呼吸、心臓マッサージのいずれか一方又はその両方が実施されていたものは21件(27.3%)でした。このうち、心臓マッサージと人工呼吸の両方が実施されていたもの5件(6.3%), 心臓マッサージのみ実施されていたもの16件(20.8%), 人工呼吸のみ実施されたものはありませんでした。

6 救急救命士の活動状況

平成24年中における救急救命処置(重度傷病者のうち、心肺機能停止状態の患者に対して、救急救命士が医師の具体的な指示に基づき実施した救命処置をいう。以下同じ。)は、救急隊員によりCPCRが施され、かつ、医療機関に収容された傷病者77人中73人に対して実施されており、救急救命士の活動状況については以下のとおりです。

(1) 出場状況

救 急 隊 別	出 場 件 数	搬 送 人 員
全 救 急 隊 (A)	2, 310件	2, 150人
救急救命士乗車隊 (B)	2, 284件	2, 148人
救命士乗車比率 [(B)/(A)]	98.9%	99.9%

(2) 救急救命処置実施状況

救急救命処置	実施件数	実 施 人 員
気 道 確 保	69件	69人 (食道閉鎖式エアウェイ 66人) (気管挿管 3人)
静 脈 路 確 保	32件	32人 (薬剤投与 13人)
除 細 動	11件	11人

(3) 事故種別高度救命処置実施状況

高度救命処置	事故種別					
	急病	交通	一般	自損	水難	合計
気道確保	53	2	7	7		69
静脈路確保	25	1	4	2		32
除細動	10	1				11

(4) 指示病院からの具体的指示の状況

救急救命士が高度救命処置を実施するに際し、指示病院から受けた具体的指示の状況は、次表のとおりです。

指示病院名	指示病院選定理由					
	かかりつけ	原因疾患	指示輪番	外傷	その他	合計(%)
日高病院	3		6		1	10(13.7%)
和歌山病院	8		11			19(26.0%)
北出病院	8		11		2	21(28.8%)
北裏病院		3	1			4(5.5%)
紀南病院	2				10	12(16.4%)
南和歌山	1				4	5(6.9%)
田辺中央病院						
その他					2	2(2.7%)
合計(%)	22(30.2%)	3(4.1%)	29(39.7%)		19(26.0%)	73

7 住民指導等

(1) 応急手当員（上級）講習の実施状況 —— 第19表

当消防本部では、平成8年6月から実施している応急手当員（普通救命）講習（消防庁が定める普通救命講習の別称）の修了者を対象に、平成25年9月8日に第17回目の「応急手当員(上級)講習（消防庁が定める上級救命講習の別称）」を実施し、男性2人、女性2人が受講し、全員が効果テストに合格しています。

なお、第1回からの総受講者数は430人となっています。

(2) 応急手当員（普通救命Ⅱ）講習の実施状況 —— 第20表・第21表

業務の内容や活動領域の性格から一定の頻度で心停止者に対し応急の対応をすることが期待・想定されている者を対象とする応急手当員（普通救命Ⅱ）講習（消防庁が定める普通救命講習Ⅱの別称、平成17年から実施）は25年中の受講はありませんでした。

(3) 応急手当員（普通救命Ⅰ）講習の実施状況 —— 第22表～第26表

応急手当員（普通救命Ⅰ）講習（消防庁が定める普通救命講習Ⅰの別称）を45回実施し、614人が受講しました。

なお、受講者の年齢層は、10歳代が407人（66.3%）と最も多く、次に30歳代の71人（11.6%）、40歳代の59人（9.6%）、20歳代の45人（7.3%）、50歳代の18人（2.9%）、60歳以上の14人（2.3%）となっています。

また、男女別では、男性が330人（53.7%）、女性が284人（46.3%）となっています。

次に、受講者を職業別にみると、学校関係者が402人（65.5%）、各種事業所関係者が106人（17.3%）、消防団関係が69人（11.2%）、役場職員関係が31人（5.0%）、個人受講者が6人（1.0%）となっています。

応急手当員（再）講習は17回実施し、335人が受講しています。

(4) 一般講習〔救急講習〕 —— 第27表

平成25年中において管内各地で行った救急講習会は78回で、2,032人に対して心肺蘇生法・骨折に対する固定法等の指導を行っています。